

学校と
家庭と
地域を



つなぐ

11月

三島市立山田中学校

11月7日は立冬。これから、立春の前日までが冬になります。朝晩とても寒い日が続きますが、小春日和の穏やかな天気恵まれています。あちこちから紅葉の便りも聞かれますが、この時期の楽しみでもあります。学校では大きな行事が一段落し、落ち着いた生活を送っています。

1 山田中”健幸”プロジェクト 八十川徹先生講演会 「生涯つきあえる「友人のつくり方、付き合い方」」

10月11日に、カウンセラーとして有名な八十川先生に、ご講演を頂きました。

その中で、幾つか心に残った言葉があります。その一部分を紹介します。なお、ブログでも紹介しておりますので、ご覧になってください。

- 人と関わること、自分から人の中に入っていくのに大切なことは、「自分が好きになること」。自分で自分を好きになるということは、自分の良いところを探すこと。そして、自分の良いところを探し、好きになることが、人を好きになることに通じる。
- 「周囲にいる人が『あなたはこういう所がいいね』とほめること」。そうすることにより、自分がどういう人間かが分かり、こういう良いところを持った人間であることを自覚する。人の良いところを見る努力をし、自分も人も良いところを見るような生活が送れば、いじめにもつながらない良い人間関係ができる。
- 人と比べて差が見えるのは当然である。そして、それが劣等感につながる。下手な生き方をする人は、差が埋められずに高いところをたたこうとする。それが、いじめにつながる。しかし、差がある人と出会うことにより、自分にとってプラスになるという生き方をする人は、努力して自分のマイナス面を埋めることを考える。人の良いところを見よう。自分の悪いところが見えた時は、努力してその差を埋めよう。

2 発達障害 (3)



発達障害を理解するための連載の3回目です。前回までは、発達障害の理解について書きました。今回は、「発達障害に気づく」事を中心に、政府広報による資料から引用させていただきます。

発達障害って、なんだろう？ 気づく ～気になる行動はありませんか～

社会で生きていくためには、社会性やコミュニケーションが必要となります。発達障害のある子どもは、それが苦手なため、幼稚園や小学校などの集団に入ると、さまざまな問題や困難に直面することになります。障害が理解され、適切なサポートがされないと、学校に行くことがストレスとなり、不登校や引きこもりなどの二次障害につながる場合もあります。

発達障害のある子どもが、社会に適応する力を身につけながら、自分らしく成長できるようにするためには、発達障害に早く気づき、適切な療育(※)につながる事が重要です。

※療育＝医療や訓練、教育、福祉などを通じて、障害があっても社会に適応し自立できるように育成すること。

発達障害に気づくためのポイントを紹介します。

(1) 人との関わり方

- ①一人遊びが多い、一方的でやりとりがしにくい
- ②おとなしすぎる、常に受動的
- ③おとなや年上の子、あるいは年下の子とは遊べるが、同級生とは遊べない



(2) コミュニケーション

- ④話は上手で難しいことを知っているが、一方的に話すことが多い
- ⑤おしゃべりだが、保育士や指導員の指示が伝わりにくい
- ⑥話を聞かなければならない場面で離席が多い、聞いていない



(3) イマジネーション・想像性

- ⑦相手にとって失礼なことや相手が傷つくことをいってしまう
- ⑧友だちがふざけてやっていることをとらえ違えて、いじめられたかと思ってしまう
- ⑨集団で何かしている時にボーッとしていたり、ふらふらと歩いていたりする
- ⑩急な予定変更時に不安や混乱したようすがみられる

(4) 注意・集中

- ⑪一つのことに没頭すると話しかけても聞いていない
- ⑫落ち着きがない、集中力がない、いつもぼんやりとしている
- ⑬忘れ物が多い、毎日のことなのに支度や片づけができない



(5) 感覚

- ⑭ざわざわした音に敏感で耳をふさぐ、雷や大きな音が苦手
- ⑮靴下をいつも脱いでしまう、同じ洋服でないとダメ、手をつなぎたがらない
- ⑯極端な偏食
- ⑰揺れているところを極端に怖がる、すき間など狭い空間を好む

(6) 運動

- ⑱身体がクニャクニャとしていることが多い、床に寝転がることが多い
- ⑲極端に不器用、絵やひらがなを書く時に筆圧が弱い、食べこぼしが多い
- ⑳運動の調整が苦手な乱暴に思われてしまう、大きすぎる声



(7) 学習

- ㉑話が流暢で頭の回転が速いことに比べて、作業が極端に遅い
- ㉒難しい漢字を読むことができる一方で、簡単なひらがなが書けない
- ㉓図鑑や本を好んで読むが、作文を書くことは苦手



(8) 情緒・感情

- ㉔極端な怖がり
- ㉕ささいなことでも注意されるとかっとなりやすい、思い通りにならないとパニックになる
- ㉖一度感情が高まると、なかなか興奮がおさまらない

※お子様が、このポイントの中で、いくつか気になる表れがありましたら、担任・学年主任・教育相談担当・養護教諭・教頭など、学校にご相談ください。スクールカウンセラー・巡回相談員やスクールソーシャルワーカーなど、相談内容に応じて取り次ぎたいと思います。

